

平成21年度第4回区民が取り組む環境エコ部会

日 時 平成21年11月27日(金)午後6時30分

場 所 川崎区役所7階第3会議室

◎出席者（敬称略）

委員 9人

（原田歩、菊地弘毅、木島千栄、須山令子、田辺富夫、富田順人、長島亨、長谷川幸子、藤岡玲子）

関係者 1人（犬塚裕雅）

◎議題と公開・非公開の区分

- (1) これまでの取り組みの振り返りについて
- (2) その他

午後6時30分 開会

1 開会

部会長 本日は、審議後に有識者による講演会を行うため、前半60分は部会の審議、後半は講演会という流れになりますので宜しくお願いします。

事務局 <講師：犬塚氏の紹介。事務連絡（会議の公開、傍聴の注意事項など）の確認、配布資料の確認など>

2 議 題

- (1) これまでの取り組みの振り返りについて

部会長 部会の最終回なので、これまでの取り組みの反省及び今後に向けた改善策などの話し合いを行いたいと思います。まずは、部会の審議を受けた取り組みの実施報告について説明をお願いします。

事務局 <資料1について説明>

部会長 これまで、『地域緑化』と『地域や家庭での環境意識向上のための啓発・教育』という2つの課題の解決策として、7つの取り組みについて審議を重ねてきましたが、各々の良かった点や課題、改善策などがあれば御意見ををお願いします。まず、『地域緑化』の解決策の一つ「緑のカーテンづくり」について。

委員 ゴーヤーの種の配布に関しては、PR不足であったと思います。市政だよりに掲載されてはいましたが、あまり知られていなかったのではないのでしょうか。

委員 委員としてもっと積極的な関わりが持てればと思います。これはどこで配布したのですか。

事務局 区役所、大師支所、田島支所の区民課（係）窓口で200セット配布しました。人気がありすぐに無くなりました。種は、環境局から分けてもらっており限りがあったため、来年度は多めにもらえるよう交渉したいと思っています。

委員 配布した効果などは把握していますか。

事務局 配布と併せて緑のカーテンづくり会員の募集を行い、登録会員には「緑のカーテン会員通信」を配信し、会員からは育成状況などの報告をいただきました。来年度は、ゴーヤーの育成方法の指導などを行った後、種を配布できればと考えています。

委員 それは良い考えだと思います。

部会長 緑政課では育成方法についてパンフレットを配布し、PRしています。それを活用するなど、PRについては色々な方法が取れるのでは。育てたゴーヤーから種を採取し育てる人が増えれば、緑もどんどん増えていく。そういう取り組みが広がっていくと良いと思います。

それでは次に、第1期から継続している「まちを花で飾る活動」についてはいかがでしょうか。

委員 継続した方が良いと思います。

部会長 継続していくためには、今後は「海風の森をMAZUつくる会」だけが活動するのではなく、他団体などにも広く参加してもらえるよう、周知方法を工夫する必要があると思います。

では、「公共施設の緑化推進」について。区内4カ所で壁面緑化を実施しましたが、こちらも継続でよろしいでしょうか。

<一同了承>

副区長 前回の部会で、次年度は小学校でも実施してくれる予定との話が出たので、他の公共施設にも広がっていくと良いと思います。

部会長 それでは、次に『地域や家庭での環境意識向上のための啓発・教育』に対する解決策「環境意識啓発ポスターの作成」のについてはどうでしょう。

委員 ポスターは目立っていてとても良かった。今後は、参加校を広げていけると良いと思います。

部会長 継続ということによろしいですか。

<一同了承>

部会長 「環境出前講座」は、事務局とグリーンコンシューマー、女性連絡協議会の関わりで実施した
ものですが、いかがですか。

事務局 次年度も実施していきたいと思います。その際、講師を様々な団体に依頼したり、受講した団
体に翌年度は講師を務めてもらうなど、人材育成につながる仕組み作りができればと考えています。

部会長 「環境エコ週間」に行った打ち水や環境の広場展などについてはいかがでしょう。

委員 環境の広場展に出席はしましたが、委員の役割分担に課題があったのでは。

委員 誰が委員か参加者なのか分からなかったのも問題です。

委員 以前、ユニフォームを作ってもらったのは良かったです。活動する側の士気も高まります。
誰が何をしているかがはっきりしないと、周囲にも活動が伝わらないのでは。

部会長 市民まつりでチラシ1,500枚を配布した時に着用したベストと帽子ですね。確かに、イベントを
開催する際には、誰が委員なのかはっきりさせると共に、区民会議の活動をPRするという面からも
ユニフォームを着るのは良いと思います。今後イベントを行う際には、事前に計画をしっかりと立てて
委員全員で情報共有し取り組むことにしましょう。トンネルの骨組みは保管してあるので、いつでも
使えるようになっています。

それでは、これらの取り組みも継続ということによろしいでしょうか。

<一同了承>

事務局 今後、区民会議の提案事業として取り組む前に委員の役割とは何か、どのような関わりを持つ
かということ等、基本的な部分について共通認識していただく必要があると思います。

なお、ユニフォームについては市民まつりでPRチラシを配布する際に、目立つようにと急遽作っ
たベストと帽子なので、今後工夫する必要があると思います。

部会長 これに限らず、全ての取り組みに言えることですね。

最後に「先進企業見学」について。事務局中心の実施ですが、いかがですか。

事務局 大変好評で、来年も参加したいという声も多かったので今後も継続していきたいと思います。

ただ、将来的に区内全校に体験してもらうよう計画しているので、2年続けてという訳にはいかないのが現状です。

委員 参加校は増やせないのですか。

事務局 企業と学校のスケジュールや、予算の関係で参加校を増やすのは難しいです。今後、予算規模も大きい教育委員会の主導でこのような事業を実施してもらうなど、区がきっかけを作り、軌道に乗ったら他に広げていく仕組みが出来れば良いと思います。

部会長 区は他の部局に、各委員は他の団体に積極的に働きかけ、取り組みを広げていければと思います。

(2) その他

部会長 エコ対策として2つの課題に基づき審議しましたが、これ以外の取り組むべき課題などがあればお願いします。菊池委員、どうですか。

委員 市民レベルでの課題は今のところ見当たりません。

委員 川崎区は、先進的な環境の取り組みをしている企業がたくさんある産業のまち。この特徴を活かしてはどうでしょう。例えば、ゼロエミッション団地で取り組んでいる環境製品の再利用。学校や商店街で回収した物品を再生可能な工場に運ぶなど、企業も含め区全体で取り組める事を考えては。身近にできる事が、環境にやさしい製品作りにつながっていると体験してもらうことは、子どもたちにとって良い環境教育になると思います。

委員 先ほどのユニフォームの話ですが、明日行う小田公園花壇作りの会で花の植え替えの時は、活動を周囲にアピールするため、おそろいのジャンパーを着ます。

委員 一般の区民も緑のカーテンづくりに大勢参加してもらえようなきっかけづくり、仕組みを考えるべきです。活動のPRという点からは、委員が同じユニフォームでいれば誰が何をやっているかが目に見えるため、区民にとってきっかけの一つとなるのではないのでしょうか。

委員 第3期で環境問題が取り上げられるか分からないので、PR方法の問題など、今後も共通するであろう、第2期委員が2年間の活動を通して感じた課題を伝えていく事が大切だと思います。

部会長 他に御意見がないようなので、以上で第4回区民が取り組む環境エコ部会の審議を終了します。

事務局 <事務連絡>

午後7時30分 閉会

協働の取り組みの推進に関する講演

◎講師

犬塚裕雅氏（NPO法人コミュニティー・コーディネーターズ・タンク理事）

◎講演要旨

<はじめに>

●PR不足という課題

今は、区民会議が自ら動いて取り組みを広げている段階。課題として挙がっている“PR不足”については、活動している姿を他者にどんどん見せて区民会議の存在を知ってもらう必要がある。実施側だと分かれば参加者から質問を受ける機会も増え、活動への参加の促しができるかもしれない。

また、委員としては自分が関わっているという意識、責任感が高まる効果もあるだろう。

●区独自の魅力を深める

区の取り組みには、子ども対象の先進企業見学や生活市民全般を対象とする企業市民交流事業のバスツアーなど、他にない独自のものがある。これらをリンクさせるなどうまく活用すれば、新たな提案が生まれる可能性もある。

●都市生活の中でのエコ活動

今後は『町場と臨海部』という区の特徴を把握し、2次的自然が残っていない中でいかに環境問題に取り組んでいくか、何ができるかを考えるべき。

<事例紹介>

●東京都江戸川区（下町でのエコ活動）

自分が住む街を知り尽くした上で、市民にできる地球温暖化防止に向けた取り組みを実施している。

- ①「市民立発電所」：地域の拠点である寺の屋根などを利用し、太陽光パネルを設置
資金）助成金、電力収入を寺から一括前払い、寄付金、借入金
- ②「市民版グリーン電力証書EDOGA-WAT」：購入者に証書、バッチ、コミュニティー通貨を進呈
→太陽光発電を地域に知ってもらうことが目的
- ③「省エネ冷蔵庫」買い替え促進：節電5年分相当の資金を無利子で融資し、節電分を返済してもらう
→家庭（民生部門）での省エネ活動に着目し、買い替えやすい仕組みを提案

※活動を継続し、人を巻き込むためのアイデアと仕組みづくりが大切。

<川崎区はどうすべきか>

実行計画実施の前に、区の地域特性、関連する市の計画、区民の意識などを確認することが大切。

●区の特徴を把握する

→「市都市計画マスタープラン」、「市環境基本計画（改訂版）」、「市民アンケート」などを活用

- ・実際に行動するのは区民。何を考えているかを把握することが必要。
- ・区民の特徴

○公共交通機関を多く使っている。マイバックスの利用率が低い。しかし、マイバックスの利用や環境イベントへの参加意欲は高い。

○地域活動の情報がない、知人がいない、知識・技術がないから参加しない人が多い。

→審議で出た「区民会議の取り組みがあまり知られていない」という認識と一致

- ・区民会議のキーワード「参加と協働」。区民との連携、協働を基本とする。今後は、事業に区民が積極的に参加できる仕組み、実践結果を点検・評価する仕組みを考える。
- ・「ボランティア3原則」：できる人ができることをできる時に（3D）
→取り組みを長続きさせる秘訣
- ・新たな取り組みを考える際、年代別に呼びかけるメッセージを変えていくなどの工夫も有効では。

※自分たちのバックグラウンドを認識し、「どういう地域社会をつくりたいか」という姿を描き、実現に向けた有効な道程を検討。多くの人を巻き込み、取り組みを継続するための仕組み作りが必要。その際、区民会議の取り組みが、理想にどのように結びついているか振り返ることも大切。

◎質疑応答、意見交換要旨

Q1 区民会議は「PR不足」という課題を抱えているが、江戸川区ではPRを行う対象をどのように決定し、どのような方法を取っているのか教えて欲しい。

A1 江戸川区には地球温暖化対策に関する相談、情報提供などの総合窓口“環境取り組み支援センター”（区がNPO法人に委託して運営）がある。

PR方法としては、区民に対して身近な問題であることを感じてもらい、日常生活の中ですぐに取り組めるような切り口で行うと参加を促しやすい。

ターゲットは、まず対象を決め、その人たちにできることは何なのかを柔軟に考えることが大切。

Q2 公共施設の緑化にとどまらず、区内にモデル地区を作ってはどうか。

A2 新宿区では地区を絞って重点的に緑のカーテンづくりをしている。地域を絞って重点的に緑化を推進することは、公共施設という点だけではなく、面的に見えるので区民へのPR効果は大きい。

また、三重県では町内会を対象に、去年の同月と比較し、緑化により温度が下がった分をポイントとしてお金で換算している。町内会では、それを活動費として活用する。このように、環境活動がメリットとして跳ね返ってくる仕組みづくりも大切だろう。

東京都東久留米市では、子どもと地域の人との交流を促進させるため、学校で子ども達が育てた花を地域住民が引き取り、さらに大きく育てる活動を行っている。新たなコミュニティーが生まれ、地域の見守りネットワークが出来ている。区民会議の2つの部会で共に取り組むことも可能なのでは。

Q 3 実行計画策定経過で出されたその他の課題についてどう感じるか

A 3 それぞれ良い意見が出ているが、将来のビジョンをしっかりと議論し、現状では何ができるかという条件を考えるべき。例えば、環境リーダーを育成するのは良いが、その後リーダーとして活動するための環境も整備するなど。将来どうありたいのか、そのために今何をすべきか、という二つの視点を持つことが大切だろう。